

## 日本薬学会第1回全国学生ワークショップ報告書

徐 勇

愛知学院大学 薬学部 医療薬学科 臨床薬剤学講座

### 概要

公益社団法人日本薬学会が主催となって2011年8月に全国62大学から62名の薬学生を集めて大阪大学中之島センターにて開催された。今回のワークショップは「6年制薬学教育を通して成長したこと」「6年制薬学教育を通して、もっと伸ばしたかったこと、やり残したこと」「今後の6年制薬学教育に望むこと、生涯学習に望むこと」の3テーマについて1グループ（7～8人）でグループ討議を行い、意見交換を行った。なおグループ討議にはKJ法という方法を使用して討議が行われた。

- ・「6年制薬学教育を通して成長したこと」（第一部）について

「薬剤師として医薬品や疾病の知識だけでなく、実務実習を通して薬剤師の仕事や役割について分かった」、「自分なりの理想の薬剤師像をみつけることができた」などの意見に加え、それに伴う「コミュニケーション能力」や「目的をもって行動することの大切さ」、「人の意見に耳を傾けること」など色々な意見がでた。その他にも「命に対する倫理観」は薬学教育（特に実務実習）を介して学ぶことができたという意見もあった。

- ・「6年制薬学教育を通して、もっと伸ばしたかったこと、やり残したこと」（第二部）について  
私たちのグループではこの討議では大きく『日常生活』

と『大学生生活』、『共通する内容』の3つに分類された。

『日常生活』では自分の視野を広げたいという意見が多くでて、そのためには色々なアルバイトを経験する、旅行に行く、色々な趣味を持つなどの意見が出された。

『大学生生活』では実務実習への要望や研究活動への要望（卒業研究の期間や臨床研究への参加など）、学会に参加してみたかったなどの意見が出された。

『共通する内容』では勉強に関すること（基礎や疾病、語学など）、人との交流に関する意見（他学部や他大学との交流）が多く出された。

- ・「今後の6年制薬学教育に望むこと、生涯学習に望むこと」（第三部）について

ここでは上記のテーマ以外に「6年制卒の1期生として取り組みたいこと」についても討議した。「6年制卒の1期生として取り組みたいこと」では自分の経験を踏まえての後輩の指導や学んだことを活かして患者さんと関わっていきたいといった意見の他に、薬剤師としての職域を広げていくための活動を積極的に行っていきたいといった意見もでた。

「今後の6年制薬学教育に望むこと、生涯学習に望むこと」では4年制と6年制の相違点を明確にしてほしいといった意見や社会のニーズを知りたい（今後の薬剤師に何が求められているのか）、早期体験学習を充実してほしい（参加型実習、臨床現場の生の声を聞けるような機会を増やしてもらいたい）、実習の中で他職種・他学



第一部のまとめ



ワークショップの風景

部との関わりを持ちたい、薬業連携の推進（薬剤部-薬局-薬学部）、実務実習では現場でしか見られないものを見学したい（手術、検査、透析など）、医療経済・薬剤経済について学ぶカリキュラムを取り入れてほしい（将来薬局を開業したい人にプラスになるため）、認定制度を統一化してほしい（ベースラインの向上、それに伴うレベルアップ）など多くの意見が出され、現在の薬学教育に満足していないと皆が感じているようだった。



第二部のまとめ



ワークショップを行ったメンバー

## 感想

今回のワークショップでは全国の薬学部の学生とコミュニケーションをとることができ、全国の薬学生が5年以上過ごしてどう感じたのか、また自分自身はどのように感じていたのかをあらためて検討し、述べることでとてもよい経験をさせてもらえたと思っています。6年生1期生として今回のワークショップがありました。薬学会として全国又は地方ごとで定期的に今回のような活動を行ったりしていけると良いのではないかと私自身思いました。

最後に今回、私は縁あってこのような企画に参加することができました。今後このような活動があるのかまだ分かりませんが、後輩の皆さんは自らアンテナをはって積極的にいろいろな催しに参加してみてください。